

久下地区での活動を踏まえて見た地域の課題と魅力 -加古川線の利用者促進のためのアイデア提案-

近畿大学総合社会学部 学生団体えだまめっこ

【学生団体えだまめっこの活動について】

私達は、近畿大学総合社会学部の学生として、久下自治振興会の皆さまの協力を得ながら、久下地区の地域イベントに参加し、地域課題の把握と解決に向けた活動を行ってきました。

【活動目的】

1. 地域課題の協働:「谷川駅 横広場の必要アイデアづくり」「加古川線利用促進アイデアづくり」
2. 地域活性化の事業展開:「住みよい暮らしよい地域づくり」

【地域の課題】

加古川線の利用者減少 ➡ 廃線の危機!?
交通手段が自動車に依存

【加古川線(西脇-谷川)の現状】

- ・利用者が極端に少ない (2023年度:275人/日)
- ・年間の運輸収入:約1,000万円
- ・年間の営業費用:約2.8億円
➡ 年間赤字:約2.6億円
- ・営業係数は2,038円
➡ 100円稼ぐのに2,038円かかる



【地域の魅力】

- ・イベント開催時は加古川線利用者が急増
- ・恐竜博物館が新しくオープン
- ・鉄道に関するイベントが多い(ジオラマ展示・フォトコンテストなど…)
- ・駅の待合室にちーたん文庫がある。
- ・地域の人があつたかい
- ・子育て世代が帰省し、子どもの数が多い
- ・食(山田錦のお酒、黒豆、柿、さつまいもなど…)
- ・四季折々の自然が美しい



地域の魅力を活かして、
地域課題を乗り越える

アイデア提案

加古川線に観光列車を! (加古川線×自然×食)

観光列車の運営日に、久下地区の食材を使った『食のイベント』を加古川線の沿線で開催する。
➡「電車に乗る目的が移動することだけでなく、乗ること自体が目的となるよう観光列車を運行する」



『食のイベント』の案
久下地区で採れた季節の食材を使った食事と地酒の提供
(山田錦など)

加古川線沿線の地域住民に定期補助を!

イベントを行うと、加古川線の利用者が増加する!
➡しかし、一時的な利用者の増加に過ぎない

加古川線の持続可能な路線維持のためには、現在、自動車で移動している人々に加古川線を利用してもらう必要がある
そのためまずは、地域住民に利用しやすい環境を整える。
そうすることで、定期的な利用が継続することにつながる

・地元の人が西脇駅や加古川駅まで、加古川線を利用した場合、乗車料金の割引を行う。
加古川駅までの距離や駅数に応じて、割引率が高くなるように調整する。

谷川駅待合室をより憩いの場へ(ちーたん文庫)

現在、谷川駅の待合室には「ちーたん文庫」や長椅子、自動販売機などが設置されており快適な空間となっている。
しかしより多くの地域の皆さんが快適に過ごせるように、谷川駅の待合室を、第三の場(サードプレイス)として整え誰もが活用できるようにする

第三の場(サードプレイス)とは?

自宅でも、職場(学校)でもない誰もが安心して過ごすことができる場所のこと

- ・机を設置する。
- ・絵本の読み聞かせ会を開催する。
- ・自習室のように整備し、勉強会を開催する。

谷川駅横の広場の活用法として(加古川線)

芝生を活かして、みんなが集まる遊びの場に!
また、観光目的で地域に来た人を、長期滞在させることにもつながるように

- ・谷川駅横の広場に、ミニ電車を走らせ、鉄道パークをつくる。
- ・テント・コテージなどの宿泊施設を設置する。
➡観光で来た人を長期滞在させることにもつながる



谷川駅横の広場活用の案
(Google Geminiを用いて作成)